

# 令和5年度 第2回教育課程編成委員会（介護福祉学科）議事録

日時：令和6年2月27日（火）

15時30分～16時30分

場所：301教室

## 委員出席者

- A 山口県介護福祉士会 会長
- B 介護福祉学科実習施設 理事長
- C YIC看護福祉専門学校 介護福祉学科卒業生

欠席者なし

## 学内出席者

- D 校長
- E 副校長 議長
- F 事務長 司会
- G 介護福祉学科 学科長
- H 社会福祉士通信課程教員 書記

## 1. 校長挨拶

カリキュラムは学校教育の中核であり、常に改善が求められる。本日は、外部の視点を取り入れるよい機会であり、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 2. 委員紹介

## 3. 議事

議長 規定第6条によりEが行う

### (1) 令和5年度教育課程編成に基づく取り組みと評価・・・資料I

G : 資料に沿って説明

<質疑応答>

B 委員：各専門分野の講師による授業について、歯科衛生士、ネイリスト、美容師などは、YICグループの他の専門学校から派遣してもらっているのか。

G : 歯科衛生士は、本校の卒業生（C委員）で、介護福祉士資格をもち、施設で働いている方である。その他はYICグループの教員や、講師など。

B 委員：現場では、介護福祉士が口腔ケアや爪切りを踏み込んで行わざるを得ない状況にある。施設で多職種によるチームで口腔ケアを行ったところ、誤嚥性肺炎の発症率が低下した。学生の頃から専門職から学ぶことは意義のある取り組みである。

C 委員：卒業生の中から、現場の実情を伝えたい、現場で活用している技術を伝えたいという声があがっている。また、卒業した留学生在が、国家試験の勉強方法について、在学中の留学生に教えられる機会があればいいのではないか。

E : 2月は国家試験も終わり、余裕があるため、勉強会という形で実施してもいい。

- G : 福祉機器展の研修について、最新の福祉機器を知っていることで、就職してから提案することができ業務改善につながると考えている。
- B 委員：民間はスピード感がある。福祉機器の導入には、介護報酬が加算されるようになり、今後どんどん進んでいくことが予想されるので、良い取り組みである。施設でも福祉機器の研修を取り入れていきたい。
- A 委員：職能団体との連携について、介護福祉士会下関ブロックでは、東亜大学と合同で事例検討会を行ったと聞いている。介護福祉士会では、介護・福祉の魅力を発信する出前講座を、小学校、中学校、高校を対象に行っているが、養成校の学生を巻き込んで実施できないか考えている。
- E : 本校では、介護福祉士会から講師を呼び、介護研究についての講義をしてもらっている。勝間小学校のイベントでも、年齢が近い学生が行うことで活性化したので、有効なのではないか。  
2027年度から、国家試験義務化が完全実施されるため、留学生への支援体制強化が必要になる。実務者研修受講の外国人には、施設としてどのような支援をしているのか。
- B 委員：外国の特定技能の教育機関で、資格を取得するまでeラーニングで支援しているところもある。
- C 委員：まずは、日本語の能力を向上させることが必要である。そのためには、学生生活の中で、留学生が日本人学生としっかり会話することが大切である。授業の時に国家試験の問題をどんどん解き、見慣れることも必要ではないか。2年間養成校でしっかり学んだ職員は、自信があり辞めることも少ない。2年間学ぶことの価値を感じている。出口である国家試験でも合格し、その価値をより高めて欲しい。
- A 委員：旧カリキュラムでは、大学に編入できたが、新カリキュラムでも同様か。可能であれば、学生募集の売りになるのではないか。シラバスの作成や模擬授業などはカリキュラムの内容に入っているか。介護福祉士会が行っている研修や、施設内研修などでそのような技術が必要になってくる。養成校で学んだ学生は、担える能力があるのでぜひ取り組んで欲しい。
- E : 本日、ご提案いただいたことを、検討していきたい。

### 3. その他

- F : 看護学科と介護学科を分けて実施したことにより、課題がより明確になった。